

(講座) 環境薬科学

(研究室) 薬品分析化学

(氏名) 大庭義史

(職名) 助教授

【研究テーマ】

1. 蛍光、化学発光を用いる生理活性成分の新規高感度・高選択的分析試薬の開発
2. シーケンシャルインジェクション分析法による活性酸素消去能測定法の開発
3. 酵素活性測定用基質の開発及び臨床分析への応用

【論文発表】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. K. Ohyama, M. Wada, N. Kishikawa, Y. Ohba, K. Nakashima, N. Kuroda: Stepwise gradient of buffer concentration for capillary electrochromatography of peptides on sulfonated naphthalimido-modified silyl silica gel, *J. Chromatogr. A*, **1064**, 255-259 (2005). (IF: 3.359)
2. K. Ohyama, M. Wada, G.A. Lord, Y. Ohba, M.N. Nakashima, K. Nakashima, S. Akiyama, C.K. Lim, N. Kuroda: Capillary electrochromatography of caffeine and its metabolites in rat brain using microdialysis technique, *Electrophoresis*, **26**, 812-817 (2005). (IF: 3.743)
3. N. Kuroda, S. Sugihara, Y. Sugihara, M. Wada, N. Kishikawa, Y. Ohba, K. Nakashima: Fluorescence labeling method for aryl halides with 4-(4,5-diphenyl-1H-imidazol-2-yl)phenylboronic acid based on Suzuki coupling reaction, *J. Chromatogr. A.*, **1066**, 119-125 (2005). (IF: 3.359)
4. K. Ohyama, E. Fujimoto, M. Wada, N. Kishikawa, Y. Ohba, S. Akiyama, K. Nakashima, N. Kuroda: Investigation of a novel mixed-mode stationary phase for capillary electrochromatography. Part III: Separation of nucleosides and nucleic acid bases on sulfonated naphthalimido-modified silyl silica gel, *J. Sep. Sci.*, **28**, 767-773 (2005). (IF: 1.927)
5. N. Kishikawa, A. Ihara, M. Shirota, M. Wada, Y. Ohba, N. Sera, K. Nakashima, N. Kuroda: Retrospective analyses of atmospheric polycyclic and nitropolycyclic aromatic hydrocarbons in an industrial area of a western site of Japan, *Anal. Sci.*, **21**, 1467-1470 (2005). (IF: 1.051)

B 邦文

(B-d) 紀要

1. 濱地千雪, 岸川直哉, 大庭義史, 中島憲一郎, 黒田直敬: ヒト血清中ハロペリドール及びその代謝産物の新規誘導体化によるHPLC定量, *日本臨床化学会九州支部会誌*, **15**, 24-29 (2005).
2. 一番ヶ瀬智子, 大庭義史, 岸川直哉, 中島憲一郎, 黒田直敬: 合成基質を用いる酵素活性測定法の選択性向上の試み, *日本臨床化学会九州支部会誌*, **15**, 32-35 (2005).

【学会発表】

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 一番ヶ瀬智子, 大庭義史, 岸川直哉, 中島憲一郎, 黒田直敬: 合成基質を用いる酵素活性測定法の選択性向上の試み, 第 15 回日本臨床化学会九州支部総会, p42, 久留米 (2005).
2. 濱地千雪, 岸川直哉, 大庭義史, 中島憲一郎, 黒田直敬: ヒト血清中八口ペリドール及びその代謝物の新規蛍光誘導体化による HPLC 定量, 第 15 回日本臨床化学会九州支部総会, p40, 久留米 (2005).
3. 岸川直哉, 中尾麻衣子, 和田光弘, 大庭義史, 中島憲一郎, 黒田直敬: 大気汚染物質の測定と評価, 長崎市の大気中 9,10-Phenanthrenequinone 濃度, 第 42 回長崎県総合公衆衛生研究会, p44-45, 長崎 (2005).
4. 岸川直哉, 中尾麻衣子, 和田光弘, 大庭義史, 中島憲一郎, 黒田直敬: キノン化合物の蛍光誘導体化 HPLC-定量法の開発と環境汚染評価への応用, フィジカルファーマフォーラム 2005, p24-25, 静岡 (2005).
5. 黒田直敬, 末廣佳隆, 岸川直哉, 大庭義史, 中島憲一郎: 過酸化水素の添加を必要としない新規過シュウ酸エステル化学発光系の検討(4), 日本薬学会第 125 年会, 2-p52, 東京 (2005).
6. 岸川直哉, 藤井 収, 大庭義史, 中島憲一郎, 黒田直敬: 紫外線照射を利用したキノン化合物の HPLC-化学発光定量法の開発, 日本薬学会第 125 年会, 2-p52, 東京 (2005).
7. 岸川直哉, 中尾麻衣子, 大庭義史, 中島憲一郎, 黒田直敬: 4-ホルミル安息香酸メチルを蛍光試薬として用いる 9,10-phenanthrenequinone の HPLC 定量, 第 12 回クロマトグラフィーシンポジウム, p37-38, 福岡 (2005).
8. 大庭義史, 宮本 葵, 中村訓子, 岸川直哉, 中島憲一郎, 黒田直敬: 活性酸素消去能の簡易・迅速分析を志向したシーケンシャルインジェクション-化学発光システムの開発, 第 18 回バイオメディカル分析科学シンポジウム, p99-100, 静岡 (2005).
9. 岸川直哉, 中尾麻衣子, 大庭義史, 中島憲一郎, 黒田直敬: 蛍光誘導体化 HPLC による 1,2-naphthoquinone 及び 9,10-phenanthrenequinone の同時定量, 日本分析化学会第 54 年会, p289, 名古屋 (2005).
10. 一番ヶ瀬智子, 大庭義史, 岸川直哉, 中島憲一郎, 黒田直敬: ルミノール誘導体 L-012 を用いる西洋わさびペルオキシダーゼ及び H_2O_2 の高感度定量のための基礎検討, 日本分析化学会第 54 年会, p302, 名古屋 (2005).
11. 山口伸也, 岸川直哉, 大庭義史, 河野麻衣子, 増田寿伸, 高館 明, 中島憲一郎, 黒田直敬: 活性酸素種に選択的に応答を示す化学発光プローブの探索, 日本分析化学会第 54 年会, p203, 名古屋 (2005).
12. 宮本 葵, 中村訓子, 大庭義史, 岸川直哉, 中島憲一郎, 黒田直敬: スーパーオキシドアニオン及び一酸化窒素消去能測定のためのシーケンシャルインジェクション分析法の開発, 生物発光化学発光研究会 23 回学術講演会, p45, 岡山 (2005).
13. 一番ヶ瀬智子, 浜辺千絵, 大庭義史, 岸川直哉, 中島憲一郎, 栢森祐三, 康 東天, 濱崎直孝, 黒田直敬: イムノキャプチャー法とプロエンハンサー化学発光基質を用いる血清中リパーゼ活性測定法の検討, 第 45 回日本臨床化学会年会, 福岡 (2005).
14. 井上瑞妃, 岸川直哉, 大庭義史, 中島憲一郎, 黒田直敬: Suzuki coupling 反応を用

いたヒト血清中 ticlopidine の HPLC-蛍光定量法の開発，第 22 回日本薬学会九州支部大会，p155，福岡（2005）.

15. 才木 茜, 岸川直哉, 大庭義史, 中島憲一郎, 黒田直敬: 4-[4-(4-Dimethylaminophenyl) 5-henyl-1*H*-imidazol-2-yl]-benzoic acid methylester を蛍光プローブとして用いるヒト血清アルブミンの定量，第 22 回日本薬学会九州支部大会，p156，福岡（2005）.

【学会役員等】

1. 日本分析化学会 九州支部会幹事

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	35 編	（邦文）	2 編
総説（欧文）	2 編	（邦文）	0 編
著書（欧文）	0 編	（邦文）	3 編
紀要（欧文）	2 編	（邦文）	8 編
特許	0 件		